人參南禪院、右大將已下候公卿座、座狹之間、人々徘徊便宜所、御戒師了遍僧正參仕、唄師二人、御剃手二人、雜役僧二人、相率參也、以南禪院道場爲其所、僧正入道場後簾中、參仕僧等相從、○略中御戒師留流轉三界中、紅涙浮眼、丹心銘肝、哀傷之悲、謂而有餘、溺涙不辨前後、不圖逢今儀、心中惘然之外無他者也、御落飾儀了、入御簾中歟、改御直衣本儀令著布袴給歟、依密儀被用御直衣、令著椎鈍衣御云々、道場南面御簾上之、東面御簾垂之、次公卿起座、取御布施、自上蔔次第取之、○略中次僧正以下退出、○略中御法名金剛眼、三十九、三字御法名者、字多、朱雀、圓融、三代也、此外猶有之歟、

○按ズルニ、本文三字ノ法名トアルハ、所謂灌頂號ナリ、宇多上皇出家ノ條ニ引用セル台記久安三年六月十八日ノ文ヲ參看スベシ、

〔增鏡今日の日蔭〕正應も三年になりぬ、○略中長月の初めつ方、中の院○龜山は御ぐしおろさせ給ふ、いとあはれなる事ども多かるべし、禪林寺殿にて、やがて御如法經などかゝせ給ふ、○略中ゑばしは禪僧にならせ給ふとて、ろうさうの御衣に、くはらといふけさをかけさせ給へり、

〔伏見院御落飾記〕正和二年十月十五日、今日上皇○伏見御幸伏見殿、明後日可被遂御出家之故也、○中略入道一位於一條今出河被○被恐誤字範棧敷有見物、予同參其所、右大將遲參之間、出御及未刻、後聞關白、○略中候御車寄、中將忠兼朝臣候御劍、頭辨長隆朝臣付御車、未終刻令渡棧敷前給、

〔皇年代略記伏見〕正和二年十月十七日、御出家、四十九、法諱素融、

〔皇年代略記後伏見〕元弘三年六月廿六日、御落飾、四十六、法諱理覺、後改行覺、御戒師前天台座主二品慈道親王、

〔皇年代略記花園〕建武二年十一月廿二日、御落飾、三十九、法諱遍行、戒師法勝寺慈鎭上人、

〔皇年代略記光嚴〕觀應二年八月八日、於河州行宮御落飾、四十一、法諱勝光智、延文元年月日、於河州離宮由良、覺明和尚奉令著禪衣、此時御諱上、勝一字被止之、

〔太平記三十九〕光嚴院禪定法皇行脚御事